

取り組んだユニットに○をしよう。

答え		問題番号		ユニット	取り組んだ
問四	①	①	問一	現代文・知識	1
	②	②			
	③	③			
	④	④			
問三	①	①	問二		
	②	②			
問二	①	①	問一		
	②	②			
③	③	③			
④	④	④			

答え		問題番号		ユニット	取り組んだ
問三	(1)	①	問二	漢文	6
	(2)	②			
	(3)	③			
問四	(1)	①	問一		
	(2)	②			
(3)	③	③			

答え		問題番号		ユニット	取り組んだ
問四	(1)	①	問二	古文	4
	(2)	②			
	(3)	③			
	(4)	④			
問三	(1)	①	問一		
	(2)	②			
問二	(1)	①	問一		
	(2)	②			
(3)	③	③			

## 1 現代文・知識

### ○漢字・四字熟語

問一 ③「境内」は、「境界の内側」という意味から転じて「神社や寺の敷地の中」を表す。「内」を「ダイ」と読む語にはほかに「内裏」などがある。⑤「精進」は「仏道修行に打ちこむこと。あることに打ちこんで一心に努力すること」。「精進料理」とは、仏教の考え方にに基づき魚や肉を用いない料理のこと。

問二 ②「縦横無尽」と「傍若無人」は、同じ「無」という漢字を使っているが、それぞれ「ムジン」、「ブジン」と読むことにも注意。

問三 ①「換算」は「ある数量を別の単位で計算し直すこと」という意味。アは「閑散」と書き、「ひっそりとして静かな様子」という意味。②「周知」は「広く知れわたっていること」。アは「はずかしく思うこと」という意味で、「羞恥」と書く。

### ○ことわざ・慣用句・抽象語

問四 「よう(な)」と付くことわざや慣用句は、その様子を思い浮かべて、どんな時に使われるかを考えよう。①反対の意味の語句に「歯に衣着せぬ」がある。②の「食う」は食べることではなく、「(長くないことを)身に受ける・くらう」という意味。③竹がまっすぐに割れる様子から、さつぱりした気性を表す。

## 4 古文

### ○古文単語・係助詞・「に」の識別

問一 ①「かげ」には「光」「形」「物陰」などいくつかの意味があるが、ここでは「亡きかげを」という形で使われているので、亡くなった人の「面影」という意味。訳は「亡くなった人の面影だけを心にとめながら……。」となる。②「大人し」には、「大人びている」のほかに「思慮分別がある」などの意味がある。現代語の「おとなしい」との違いに注意しよう。訳は「十一歳におなりになるけれど、年のわりには大きく大人びて……。」となる。

問二 直前の語が未然形か已然形かに着目する。①「長けれ」は形容詞「長し」の已然形。よって順接確定条件。訳は「命が長いといつも、恥が多い。」となる。②「殺さ」はサ行四段活用の動詞「殺す」の未然形なので順接仮定条件。訳は、「悪人のまねと言つて人を殺すならば悪人である。」となる。

問三 それぞれどのような語に接続しているかを確かめる。①完了の助動詞「ぬ」は連用形に接続するので、ハ行四段活用の補助動詞「給ふ」の連用形「給ひ」に接続しているアが正解。イは副詞「すでに」の一部。②断定の助動詞「なり」は体言・連体形に接続するので、体言「恥」に接続しているアが正解。イは、ラ行下二段活用の動詞「忘る」の連用形「忘れ」に接続している完了の助動詞「ぬ」の連用形。

### ○読解

#### 問四

〔古文〕伊勢物語

(1) 「かくれ」はラ行下二段活用の動詞「かくる」の

連用形なので、エが正解。「に」が完了の助動詞の場合、その下に助動詞「き・けり・けむ・たり」を伴うことが多いが、ここでは後に「けり」があることから判断できる。その他の選択肢を見てみると、アの接続助詞は連体形に接続するので間違い。動詞「かくる」はラ行下二段活用で、活用語尾に「に」はないのでイも不適。ウの断定の助動詞は体言・連体形に接続するので、これも不適。

(2) 接続助詞「ば」がどういう意味かを考える。直前が「けれ」と已然形になっているので、順接確定条件である。よって、仮定条件であるウは不適。順接確定条件は二つの意味があるので、後は文脈から判断する。本文は、「女の居場所は聞いたが簡単に訪ねられるところではない↓つらい」という流れなので、原因・理由を表すアが文脈に合い、正解。

(3) 去年と違う点は何かを考える。その後の和歌で、「あの人がいなくなったせいで、月も春も昔とは違って見える」という歌を詠んでいるので、思いを寄せていた女性がいなかったということが原因とわかる。よって、正解はイ。アは本文にない内容。ウは屋敷についての記述なので不適。エは、「どこに行ったのかわからず」が不適。「ありどころは聞けど(居場所は聞いたけれど)」とある。

## 6 漢文

### ○句形・疑問形・反語形・二重否定)の知識

問一 ①「ざルニあらず」と読む二重否定の句形であることに注意する。《にくむ十ない↓にくまない)十ない↓にくまないのでない》である。よつて、イが正解。ア・ウは二回目の否定を訳せておらず不適。また、ウは疑問の形にしている点も不適。②「何為レゾ」は疑問形と反語形で文末の読み方が異なるので注意する。ここでは「何為れぞ戸を執らざる。」と、文末が、打消の助動詞に当たる「ず」の連体形なので、疑問形。よつて、正解はア。イの「とるのか」は「執らざる」の打消(ない)が訳されていないので不適。反語形で訳しているウも不適。

問二 ①「百姓」は日本語の「農民」という意味ではなく「一般の人々(支配者以外の人)」という意味。②「宜シク(スベシ)」は再読文字で、「(する)のがよい」という意味である。

#### おさえてよ

漢文で意味に注意する語句(人に関係する語句)

先生…あなた。学徳のすぐれた人を敬つて呼ぶ。

大丈夫…一人前の立派な男子。

小人…つまらない人物。

故人…昔なじみの人。

遊子…旅人。他郷にある人。

佳人…美人。賢臣。

家君…父を敬つて呼ぶ呼び方。

### ○読解

#### 問三

〔出典〕世説新語

(1) 返り点の付いていない「倚」を最初に読む。「倚」の上の「所」にレ点が付いているので、「倚」↓「所」の順に読み、次に二三点に従つて、「柱」↓「破」の順に読む。正解はウ。

(2) それまで太初がしていた「手紙を書く」様子が変わらなかつたのである。よつて、アが正解。イは「衣服が焦げたにもかかわらず、それまでと同じ様子であった」という本文の流れに合わない。ウは太初の行動ではない。エは「神色変ずる無く」とあるので不適。

(3) 「得ず」は不可能を表す語で、「できない」の意味。よつて、ウが正解。

(4) 本文が、太初と他の人たちの様子を対比し、太初の物事に動じない様子を際立たせていることに注目する。正解はエ。アは、太初に対する否定的な内容なので不適。イとウは太初に焦点を当てていないので不適。